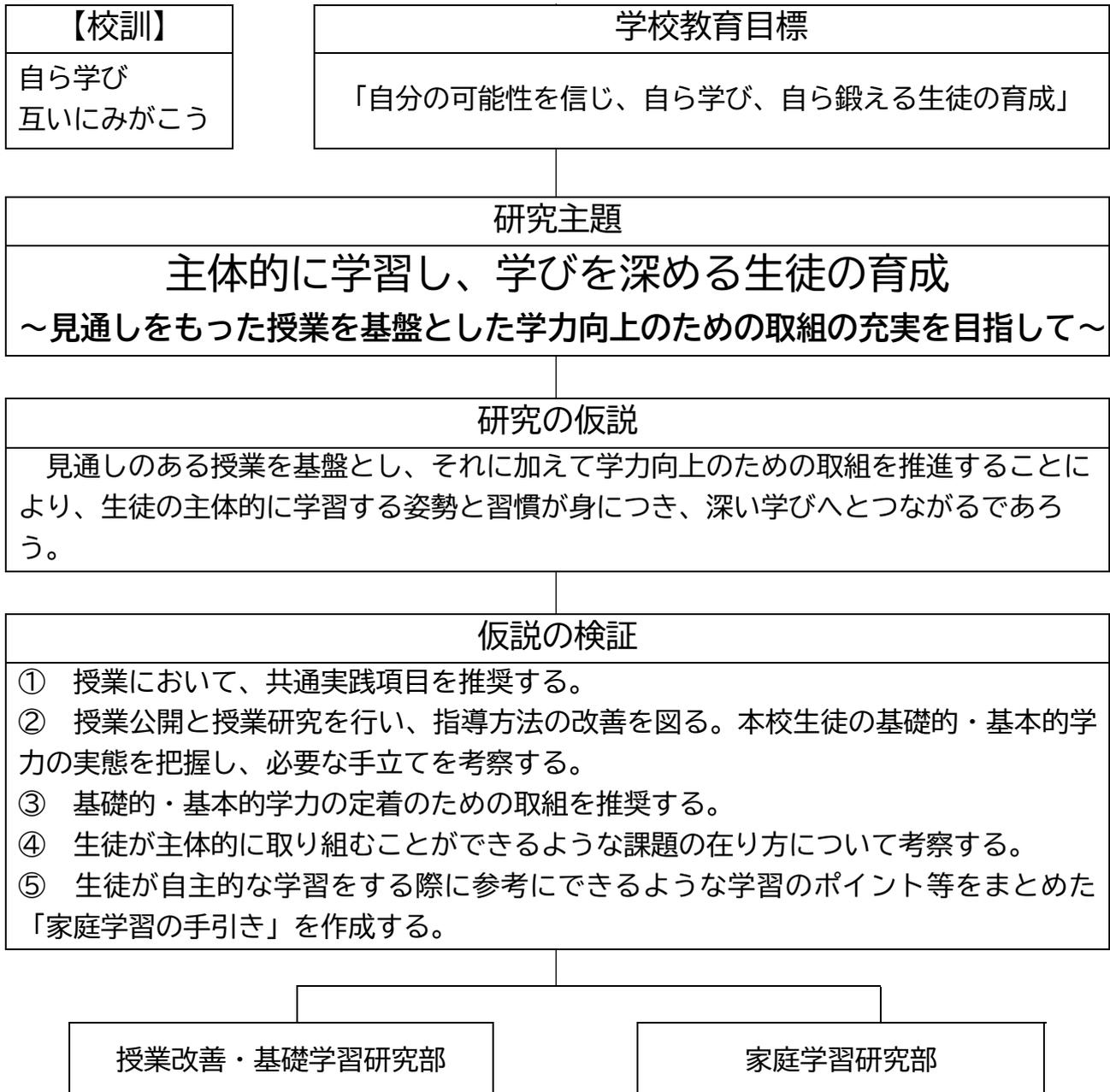
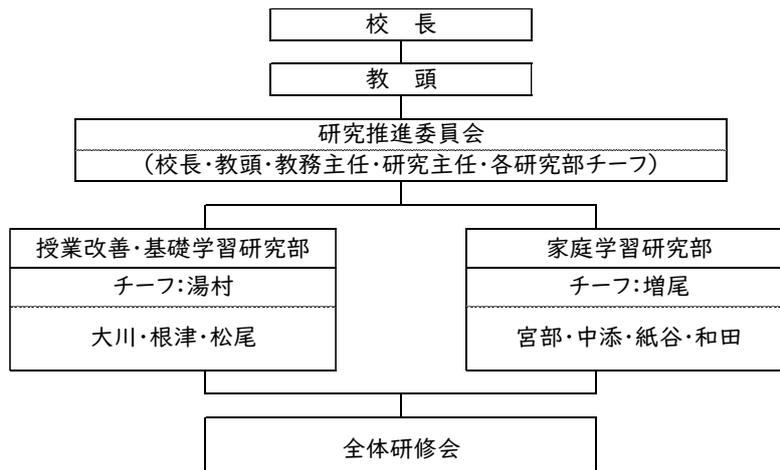


# 令和3年度 校内研修計画

## 1 研究構想図



## 2 研究組織



### 3 本校生徒の実態

○素直で、指示されたことは、きちんとできる。

▼学力が低い。基礎的・基本的な学力が身につけていない。

▼聞く力・読み解く力が不十分。

▼家庭学習の習慣が定着していない。

▼学習への集中力がない。

### 4 宮中学校経営方針より抜粋

教育目標「自分の可能性を信じ、自ら学び、自ら鍛える生徒の育成」

○学校の役割（責任）

(1)基礎的・基本的な学力をしっかりと身につけさせる。

(4)共に考え、共に伸びる生徒を育てていく。

※「学力」とは、基礎的な知識及び技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度のこと。

生徒の『確かな学力』の育成のために、①基礎的・基本的な学力の定着を目指すこと。

②家庭学習の内容を充実させること、家庭学習を習慣化すること。を基本とする。

### 5 各部会の主な活動内容

#### ①授業改善・基礎学習研究部

○授業全般について (6参照)

○授業公開について (7参照)

○小中連携について

相互に授業を見合う。公開授業、授業研究会への参加。小学校の先生方に、中学校での実態を見てもらう。

○基礎基本定着に向けた取組について

放課後の時間等に各教科の基礎基本が身につくような取組を行う。(e ライブラリ等も活用する。)

#### ②家庭学習研究部

○課題について

生徒が家庭での学習を習慣化し、主体的に学習できるような課題について考察する。

○家庭学習の手引きについて

生徒が家庭で自主的に学習できるよう、教科ごとに学習のポイントをまとめる。

### 6 授業での共通実践項目

(1) ねらい（めあて）、学習の流れを明確にする。

→この単元、授業を通して子どもたちに何を伝えたいのか、何を学ばせたいのかを明確にすること。受験があるから学習しなければいけないという指導ではなく、「学ぶことが楽しい」と思わせる授業づくりを行う。そのための具体的なめあてを提示する。

→「めあて」と「まとめ」をラミネートした表示は各教室に置いてあるので、授業で使用する。

(2) 習得と活用、学び合いを取り入れる。

→課題に対して受け身ではなく、主体的に取り組むことができるよう、習得した力を活用する場面を仕組む。また、感染症対策を徹底しながら、学び合いや教え合いの場면을積極的に設定する。

(3) 導入時に生徒の興味・関心を高める工夫をする。

→実物や写真、ICTの活用等の「モノ」を用いて、授業への集中力と興味・関心を高める。

## 7 授業公開（最低年1回・全教員）

公開授業は、木曜日を実施。授業参観の3つのポイントに注目できるような指導略案を作成する。参観カードに気づきや手立てを記入し、その日のうちに集約する。その日の放課後、授業研究会と各部に分かれての研究部会を行う。

### ① 授業参観のポイント

- ① 基本的な学力の定着
- ② 主体的に学習する態度
- ③ 見通しのある授業（めあてとまとめ）

### ② 授業研究の進め方

（1）全体協議 （2）各部会での協議 （3）振り返り

協議では、①～③のポイントについて気づきを出し合い、必要な手立てを考察する。

## 8 年間校内研修計画（案）

4月	令和3年度年間校内研修計画提案
5月	公開授業（数学科）及び授業研究会・研究部会
6～9月	公開授業（全教員）及び授業研究会・研究部会（月1回程度）
10月	公開授業（数学科）及び授業研究会・研究部会 （小学校の先生の参加？）
11月～2月	公開授業（全教員）及び授業研究会・研究部会（月1回程度）
3月	校内研修に関する反省及び次年度へむけた校内研修組織体制の確立